

○グループ討議内容

【A班～委員6名、図書館職員1名】

(討論概要)

- ・ワンフロアになっていると親子連れが利用しやすく、職員の対応もしやすいのではないか？
- ・広い年齢層が利用しやすい場所であってほしい。
- ・中・高生が落ち着いて使える場所になればいい。
- ・学習室という話題が良く出ているが、中高生の望む集まれる場所が必ずしも図書館の中の学習室とイコールとは限らない。
- ・高校生の集まる場所として…高校でもある程度、放課後に学校を開放しているが、生徒はすぐに下校していくことが多い。
- ・3階の展望室が暑すぎて夏は滞在できない。
- ・予算的に厳しいかもしれないが、今のシールタイプではない読書通帳(印字式)があれば、子どもたちのテンションも上がるのではないか？
- ・児童室が硝子などの姿が見える仕切りで区切られている部屋はどうか。音対策が必要になるか？
- ・DVDなどの視聴覚資料の貸出(要個人視聴著作権付随資料)はできないか。
- ・個性的な図書館についても、見てみたい。
- ・漫画やボードゲームなどを所蔵している館もあると聞くが、実際はどうか。
⇒漫画は地域に関係があるものに限定して収集している。多種類に大量のコミックスを購入するのは物理的、予算的に難しい。また、ボードゲームの貸出しも、細かい部品を図書館で管理するのはかなり困難と思われる。紛失に対応できない。

【B班～委員5名、図書館職員1名】

(討論概要)

- ・最近の利用者は車で来る人が多いと思う。場所はあまり関係ないのではないか？
 - ・図書館に雑誌は必要ない。昔から続く古典・名作を集め、どのくらい借りられているかなどの数にこだわらず、自分では買えない高価な本を集めるのが図書館のあるべき姿だと思う。
 - ・雑誌も、図書館に必要な生活を豊かにする大切なものだと思う。新聞に載った本なども見て、今の時代を感じることも大事だと思う。
 - ・子供たちにいい本をたくさん読んでほしい。日本や世界の文学全集などがあればよくて、最近の受賞作などは必要ないのでは。百年後には残らない。
 - ・古典も現代作品も、百年後に残っているか今はわからないし、今の子供たちに必要な本も現代の作品の中にもたくさんあると思う。
 - ・こどもと来て本を見ている中で、同じフロアに書架があれば、お互いの存在を意識しながらゆっくりと本を選べると思う。
 - ・児童書が子育て中の大人にも必要で、親も一緒に育ててもらえると思う。
 - ・まちかど図書館など、あったらいいと思う。通学路沿いの商店など町で借りて高校生に見てもらって、返さなくていいよ…みたいな形にしてみてもどうか。
- 長期的に引き取られない本を把握し、廃棄する必要がある。これからは廃棄にもお金が必要になるのか…。
- ・古本市の別形態(常設?)
 - ・こどもの部屋は、秘密基地みたいに囲われているようなところもいいのではないか？
 - ・小さい子どもたちを連れた親子連れにも、雑誌など気軽にみられるものは必要と思われる。

【C班～委員5名、図書館職員1名】

(討論概要)

- ・図書館として建てられた建物がよい。
- ・若い人にとって便利で魅力ある図書館。音声・映像資料の閲覧スペースも必要。
- ・インターネット検索ができること。
- ・子ども目線で、本を手に取りやすく、わくわくするような書架(形、展示の仕方)の児童書室があるといい。
- ・腰かけてゆっくり本を見ることができること。
- ・スタッフ対応(事実調査から読書相談まで)…にこやかで、気軽にものを聞きやすいこと。
- ・人口が減少することと経費のことを考えれば単独館は非現実的か？
 - ⇒他町村の例を見ると、行政施設で言えば大樹の現状と同じく、文化的な機能(コンサートホールなど)がまとめられた建物が多い。役場との併設もある。民間企業と同じ建物に入っている場合もあり、例えばスーパーマーケット、コワーキングスペース、オフィスなど…
 - ⇒町民から要望のある「雨、炎天下の日に子どもが遊べる場所」と併設できれば土日は近隣市町村民も利用するのではないか？
- ・図書館が本の置き場、借りて帰るだけの場所であってはならない。子どもの居場所であり、町民の集まる施設であるべきだと思う。
- ・図書館の中で、エリアが分かれていたほうがよい。静かに集中できる場所、親子連れが遠慮しなくてよい場所など…。
- ・図書館像については、建物の形態以上に、第一に図書館員の雰囲気と、レファレンスの能力。カウンターの職員がほがらかで受け応えの感じがよければ、明るい場所になる。折角の本に関する知識を、町民に提供しなければならない。
- ・図書館員と言えば、生涯学習センターを利用する子どもたちの話し声や物音にもっと寛容になってほしい。学習センター機能との複合施設である限り図書館としての静寂を追求するのは無理だと思う。
- ・折角、宇宙のまちなので、宇宙の本にもっと力を入れるべき。星座の神話やSFなど含む様々な物語、最新のロケット工学、外国語の資料まで揃えて、小さな子どもにも魅力的で

宇宙開発関連の仕事をしている人にも有益な資料収集、展示をなぜしないのか？

⇒宇宙の本は積極的に収集していて、カウンター前の一等地にコーナーがあるが、利用者にとって最大限魅力的な状態ではないかもしれない(スペース、図書予算、現状の需要の都合も…)

- ・SORAとの連携も積極的に検討すべき。
- ・宇宙の本のための部屋を設けてもいいくらい。映像資料も収集・提供し、VR体験ができるだとか…。
- ・宇宙のみならず、まちの情報センターとして機能してほしい。
- ・「すてきな図書館があるまち」というのは、まちの魅力になりうる。人口減少は避けられないし、観光客や一時滞在の方にもじゅうぶんに目を向けた図書館にすべきではないか？